

# シンガポールの緑化政策の概要

財団法人 自治体国際化協会  
(シンガポール事務所)

# 目 次

はじめに

概要 . . . . . i

## 第1章 ガーデンシティ、シンガポール

第1節 政策の背景 . . . . . 1

第2節 緑化の現状 . . . . . 2

第3節 これまでの経緯 . . . . . 4

## 第2章 緑化の推進体制

第1節 推進組織 . . . . . 6

第2節 予 算 . . . . . 8

第3節 業務内容 . . . . . 9

第4節 所管施設 . . . . . 10

## 第3章 緑化への取組み

第1節 緑化コンセプトの変遷 . . . . . 15

第2節 海外からの植物の導入 . . . . . 16

第3節 法による厳格な規制 . . . . . 23

## 第4章 政策の展開と今後の課題

第1節 マスタープラン . . . . . 30

第2節 ネットワークの整備 . . . . . 30

第3節 国民への啓蒙活動 . . . . . 31

第4節 今後の課題等 . . . . . 32

おわりにかえて . . . . . 33

## はじめに

「1960年代リー・クアンユー首相が、熱帯でしかも人口稠密な国の暮らしにくさを少しでも和らげようとシンガポールをガーデン・シティにしようと決意した時、財源もなければ、所管の部局もなかった。というのは、当時、政府は失業対策やコミュニストの暴動対策に手一杯で、また、国民は生きることに精一杯で、とても植物などに注目する余裕がなかったからである。

しかし、リー首相はあきらめず、海外出張の合間をぬって、ただ1人パリの大通りの街路樹の排水システム、赤土がむき出しでスコールの都度土壌が流されるシンガポールと対照的なニュージーランドの草原などを研究していた。そして、コロボプランの資金でニュージーランドから2名の専門家を呼びシンガポールの土壌改良に乗り出したのである。

数年後、シンガポールが経済発展し、高速道路や歩道橋が増えてくると、広い高速道路が大きな影を造らないように、高速道路を2つに分けその隙間に植樹した。さらに、職員に命じて高速道路や歩道橋の下で太陽が射さない場所でも生育できる植物を中南米、アフリカなど熱帯、亜熱帯地域から隈なく探させた。そんな植物はつる草を含めてもごくわずかしかなかったが、彼らは新しい植物をシンガポールに持って帰ってきた。

リー首相は、彼らに『この新しい植物が生育すれば、気温が下がり、過ごし易くなり、今とは違うシンガポールになる。(You'll have a different city.)』と語った。---

これは、シンガポールの建国の父と言われるリー・クアンユー前首相の伝記“LEE KUAN YEOW—THE MAN AND HIS IDEAS”（執筆者は地元新聞社の記者3名）の書き出しの数行である。

ことほどさように、シンガポールの国づくりとその緑化政策は唇齒輔車の関係にある。

このレポートでは、シンガポールの緑化政策について

- (1) 英国の植民地時代からの植物園での植物研究や香料などの作物栽培の伝統
- (2) 冒頭のリー首相の姿勢にも伺えるように息の長い継続的な取り組み
- (3) 風水などの国民の文化、風俗にも適合した取り組み
- (4) 厳しい法律で植栽を強制するなどの手法による民間の取り込み
- (5) 海外からの観光客や投資を呼び込めると国民に常に経済効果との関連で緑化政策の必要性を説いた巧みな広報

など、その成功の秘訣を分析するとともに、経緯、現状、課題、新しいチャレンジ（限られた国土の中での将来の人口増加という条件の下でいかに緑を増やすか）などについて説明している。

本レポートが、いくらかでも、日本の地方自治体の緑化政策の参考になれば、幸いである。

(財) 自治体国際化協会シンガポール事務所長

## 概要

シンガポールにおいて緑化推進のための取組みが進められたのは、初代の首相リー・クアン・ユー上級相（元首相）の提唱に端を発している。

現在シンガポールには、合計約33ヶ所、約1,650ヘクタールに及ぶ都市公園や約2,900ヘクタールの自然保護区がある。さらに、公園面積（自然保護区除く）は、国家として本格的に緑化の取組みを開始した1967年においては700ヘクタールだったのが、2000年には5,955ヘクタールに増え、緑化政策に対する政府の取組みの成果が顕著に現れている。

シンガポールの緑化政策は現在、国家開発省が担当しており、具体的な施策はその法定機関である国立公園庁（National Parks Board）が行っている。公園管理統括局には、イスタナ公園管理部、南西公園管理部、北東公園管理部の3つの部があり、それぞれの部は3～5の係で構成される。シンガポールの緑化政策に関する予算は、継続的に国家予算の一定割合がついており、このことは、緑化政策は一時的なものではなく、継続的に実施しなければならないというシンガポール政府の考え方を明示している。

この緑化政策のポイントとしてあげられるのが次の3つの施策である。まず第一に、緑化政策のフェーズごとの基本計画をマスタープランとして策定し、着実に実行してきたことである。

第2に、植物に関する徹底した研究と維持管理である。現在、シンガポールには約2,500種類の植物が生育しているが、そのうち実に約60パーセント以上のものが外来産であるとされている。

第3には、法による厳しい緑の保護規制の存在である。これは、緑化政策が持つ意味合いが、シンガポールにおいては他の国に比してより重要度が高いことから、非常にきめ細かなルールとして定められている。これらは主として、公園の整備や利用について定めるとともに、樹木等の育成及びその保護を図ることを目的として制定されたものである。

政府は、今後既存の公園等をうまく活用しながら、緑を点的な整備から面的な整備へと広げることに重点をおくこととしており、そのため、これまで整備してきた各緑化エリアをネットワークとして整備していく方針を明らかにしている。

今後も更にこれらパークコネクタの建設を行い、各公園の「緑と緑を結ぶ、緑のネットワーク」の整備を拡充していく予定である。

緑を増やし、適切に維持していくためのシステムがしっかりと合理的にきめ細かく確立されているのが、現在シンガポール政府が進めている緑化政策の大きな特徴である。また、これらハード面の整備とともに、今後の緑化政策を推進する上で重要なカギとなってくるのが国民の意識づくりである。積極的に各種キャンペーンや、緑化に関するセミナー等の開催、各学校における教育プログラムの実施をしていくこととしている。

## 第1章 ガーデンシティ、シンガポール

### 第1節 政策の背景

シンガポールにおいて緑化推進のための取組みが進められたのは、初代の首相リー・クアンユー氏(1965年から1990年まで首相を務め、現在は上級相。以下「リー前首相」と記述することにする。)の提唱に端を発している。そのきっかけとなったのはリー前首相が、国民がまちで痰やつばをはいているのを見て考えついたと巷では言われているが、より差し迫った理由としては、この緑化政策が、1965年にマレーシアからの分離・独立を余儀なくさせられたシンガポールが国家として今後生き残っていくために実践せざるを得なかった、いわば国家の命運をかけた最重要の基本プロジェクトであったという事実である。

すなわち、シンガポールは当時、まだわずかに人口200万人余りで、国土面積も日本の淡路島や東京23区程度の大きさしかなく、特に発達した産業や特別の資源も有していなかった。また、表 1にも示すとおり、年間を通じて高温・多湿な気候となっており、生活面においても決して過ごしやすいといえる環境ではなかった。加えて、複数の民族で構成される多民族国家(表 - 2を参照)となっており、これらはいずれも国家を運営する上においては必ずしもプラスとはならない、むしろマイナスの要因ばかりであったといえる。

こうした事情を抱えながら、シンガポールがなお国家として生き残り、繁栄するためには、外国の投資や企業及び観光の誘致など、外部の力に依存せざるを得ず、そのためには、外国人が安心して訪問し、投資・企業進出等を行うことのできる国づくりが必要であった。

そこで、目をつけたのがこの緑化政策であり、世界トップレベルの緑の国を築き上げ、東南アジアにおけるオアシスとしての位置を築き上げることで、海外投資家や観光客など、この国を訪れる者に対して安心、快適、清潔なイメージを与え、それらの力を借りることによって国際的な競争力を高めていくことこそが、独立後間もないシンガポール政府の緊急の課題であったのである。

シンガポール政府は今日まで、一体どのような緑化の推進のための取組を進めてきたのであろうか。これについて触れる前に、まず現在のシンガポールの緑についての認識をより深く認識していただくため、次節において、シンガポールにどれほど緑が実在するのか、その現状について記すこととする。

表 1 - 気候

	シンガポール	東京
年平均気温	26.8	15.9
年間降水量	2,345mm	1,467mm
年平均湿度	84.3%	63.0%

表 2 - 民族構成

民族	比率
華人系	76.8%
マレー系	13.9%
インド系	7.9%
その他	1.4%

## 第2節 緑化の現状

以上のような背景の下、緑化を推進する政策をとり続けてきたシンガポールには、実際のところ、どれほどの緑が存在しているのだろうか。

シンガポールの2001年現在の国土面積は約683 K m<sup>2</sup>（注1参照）で、その国土の利用は表-3のとおり、建物などの建設地域がほぼ半分となっている。

表3 - 国土の利用区分

用途	割合
建設地域等（注2参照）	49.1%
森林	4.3%
湿原・原野	2.4%
農地	1.5%
公園その他	42.7%

（出典：Singapore facts and pictures 2001）

一方、現在シンガポールには合計約33ヶ所、約1,650ヘクタールに及ぶ都市公園や約2,900ヘクタールの自然保護区がある。また道路沿いの街路樹は4,000ヘクタールを超えており、管理している樹木だけでも実に約100万本にのぼる。さらには、後述するパークコネクタと呼ばれる自然の遊歩道や散策道などもネットワークとして整備されている。これらを国土の利用別の割合及び実際には利用されていない土地あるいは利用できない土地の存在などを考慮すると、実に概ね3分の1以上の国土が緑で覆われていることとなっている。さらに、公園面積（自然保護区除く）は、国家として本格的に緑化の取組みを開始した1967年においては700ヘクタールだったのが、2000年には5,955ヘクタールに増え、国民1000人当たりの公園面積は1967年には0.39ヘクタールだったのが、2000年には0.65ヘクタールに増えるなど、緑化政策に対する政府の取組みの成果が顕著に現れている。（注3参照）

では、このような政策の結果、どのような効用がもたらされただろうか。まず、国内のあらゆる所に植樹をした結果、木陰が多くなり、歩行者は炎天下でも直射日光を避けることができるようになったことが挙げられる。また大雨の際にも雨粒を避けることができ、一石二鳥である。気候面からみても、わずかではあるが、最高気温、最低気温ともに1990年時点に比較して2000年には下がっており、緑化政策の効用といわれている。

緑を多くすることで、街を衛生的に保つことになり、企業や観光客の誘致も促進された。外国人観光客は1997年のアジア経済危機以降年々増加している。「アジアウィーク」2000年12月号では、シンガポールは福岡、東京に次ぐ第3位の「アジアにおけるベストシティ」に選ばれているのだが、このベストシティ選定の要件には、犯罪発生率などとともに、環境衛生面が重視されている。

このようなことから、東南アジア各国や中国は、シンガポールの緑化政策の成功を目の当たりにし、自国にもその政策を導入しようとする動きが高まり、近隣

国への波及効果も大きい。

なお、シンガポール植物園が交配によって新たに作り出した各種の美しい蘭に、シンガポールを訪問する外国要人の名前をつけることも行っている。これまで日本の天皇皇后両陛下、皇太子妃を始め、サッチャー元英国首相、ダイアナ妃、ネルソンマンデラ元南アフリカ大統領などの名が蘭に冠されており、外交面で一役買っている。また、島内のジュロン丘には、スカルノ元インドネシア大統領が来星された際に植栽された木がある。

注1：現在のシンガポールの国土面積は682.7 k m<sup>2</sup>。1990年当時は約626 K m<sup>2</sup>であったが、その後の埋立により面積が増加。

注2：「建設地域等」には住宅、工業地域等を、「その他」には墓地、軍用地、空地、未使用地等を含む。

注3：国民1人あたりの公園の面積を見てみると、2000年3月末現在でシンガポールでは1人あたり約6.7m<sup>2</sup>となっているのに対し、日本の東京都（特別23区内）及び大阪市では、それぞれ約3.0m<sup>2</sup>、約3.4m<sup>2</sup>となっている（実際には公園等の定義がそれぞれ国によって若干異なるが、ここではあえて数字で比較）。また、実際の都市の比較として人口密度をも考慮してみると、シンガポールが人口密度6,050人/km<sup>2</sup>であるのに対して、例えば東京都全体では5,404人/km<sup>2</sup>となっており、以上のことから考慮すると、都市国家として成り立っているシンガポールにおいて、如何に多くの緑が創造、確保されているかということが数字の上からも明確に伺える。

### 第3節 これまでの経緯

シンガポールの緑化政策については、1960年代以降のものに脚光が当てられている。しかし、実際には約180年前のラッフルズ卿上陸以来の歴史的・文化的な背景が存在している。貿易拠点としての草創期には、中華系やインド系などの移住者が母国からの外来観葉植物を家屋内に持ち込んでいた。また各民族料理に用いるための外来植物の栽培も居住区近くで始めていた。シンガポールでの貿易が発展するに従い、市場作物や多様な果樹が外部から持ち込まれ、その栽培が失敗を繰り返しながらも進められてきた。また古くは1848年、当時の統治者イギリス人により森林伐採が禁止され、1882年には最初のシンガポールの森林保護区も設定されている。1860年代からは囚人による果樹や観賞用樹木の植栽・管理も行われた。1880年には植物園の監督により街路樹の植樹も始められた。1924年の調査では、63の街路に38種類5,626本の樹木が見られており、シンガポールでは、最近の方向性だけではなく、古くから緑化を進め、自然を守るといった土壌が育っていた。

その後、シンガポール共和国独立後の1967年にリー・クアンユー首相がガーデンシティコンセプトを提唱して緑化政策を進め、植樹などによる緑化と公園化の拡大を図ってきた。また、多様な公園・施設の整備などによる魅力ある街づくりも進め、現在のガーデンシティと言われる都市にまで造り上げてきたのである。

#### 《参考》

##### ～シンガポールの緑化に関するこれまでの沿革～

- 1819年 イギリス人ラッフルズ卿シンガポール上陸（シンガポールの幕開け）。
- 1822年 ラッフルズ卿がフォートカニングの丘に最初の植物園を開設（1829閉鎖）。
- 1848年 島内の森林伐採を禁止。
- 1859年 現在のシンガポール植物園（Cluny Road）の敷地内に農業ソサイヤティが、会員利用のために植物園を開設。
- 1875年 農業ソサイヤティが植物園の維持管理業務を政府に移管。
- 1876年 ブラジルから7万余のゴムの木の種子が持ち出され、翌年そのうちの22粒がシンガポールへ。
- 1882年 シンガポール最初の自然保護区を設定。
- 1888年 ヘンリー・ニコラス・リドリーが植物園園長に就任（植物の栽培とゴムの木を枯死させずにゴム樹液を採取する技術者）。
- 1924年 島内の63の街路に38種類5,626本の樹木がある旨の調査結果。
- 1945年 太平洋戦争終結。
- 1965年 シンガポール共和国独立。
- 1967年 リー・クアンユー首相がガーデンシティ・コンセプトに着手。都市緑化を目的に政府の公共事業局内に公園・樹木課を設置。都市環境の速やかな改善を目的として木陰と緑を増加させるためにシンガポール内の街路への植樹を



- 推進。
- 1971年 国民植樹の日を制定。
- 1972年 園芸学校設立。
- 1976年 ガーデンシティ・キャンペーンの実施部局として公園・余暇局（PRD）を設置。植物園を拡大。シンガポール動物園やジュロンバードパーク、センターサ島のような観光施設にも新たな樹木・植物を導入。
- 1990年 シンガポール植物園、フォートカニング公園や自然保護区は公園・余暇局の管理から離れる。公園を余暇、自然保護、調査・教育の貴重な資源として開発、管理、増進するため、新たに国立公園庁（National Parks Board）を設置。
- 1995年 シンガポール植物園内に、蘭園（National Orchid Garden）を開設。
- 1996年 公園・余暇局と旧国立公園庁を合併し、国立公園庁を再編（7月）。
- 1998年 公園を自分たちのものと考え、コミュニティへの参加意識と緑と公園施設への感謝の念を国民に啓発するため、ボランティア制度（Adopt-A-Park）を設立。
- 2000年 新ガーデンシティ・コンセプトが政府計画Parks 2 1の下より精緻になり、公園と緑化の改善に関する長期的推進指針であるガーデンシティ・コンセプトを見直し（1月）。
- 国立公園庁は、都市再開発庁（URA）と中心地区での景観マスタープランづくりを推進。中心地区での景観改善を図るマスタープラン骨子を準備。同時に中心ビジネス地区への進入口となる道路の整備を推進。
- 2002年 国立公園庁は、1,700haの公園や関連施設、オープンスペースとともに、839haの自然保護区を管理し、4,100ha以上の道路沿いの緑地や国有の空地の維持管理を実施。

## 第2章 緑化の推進体制

### 第1節 推進組織

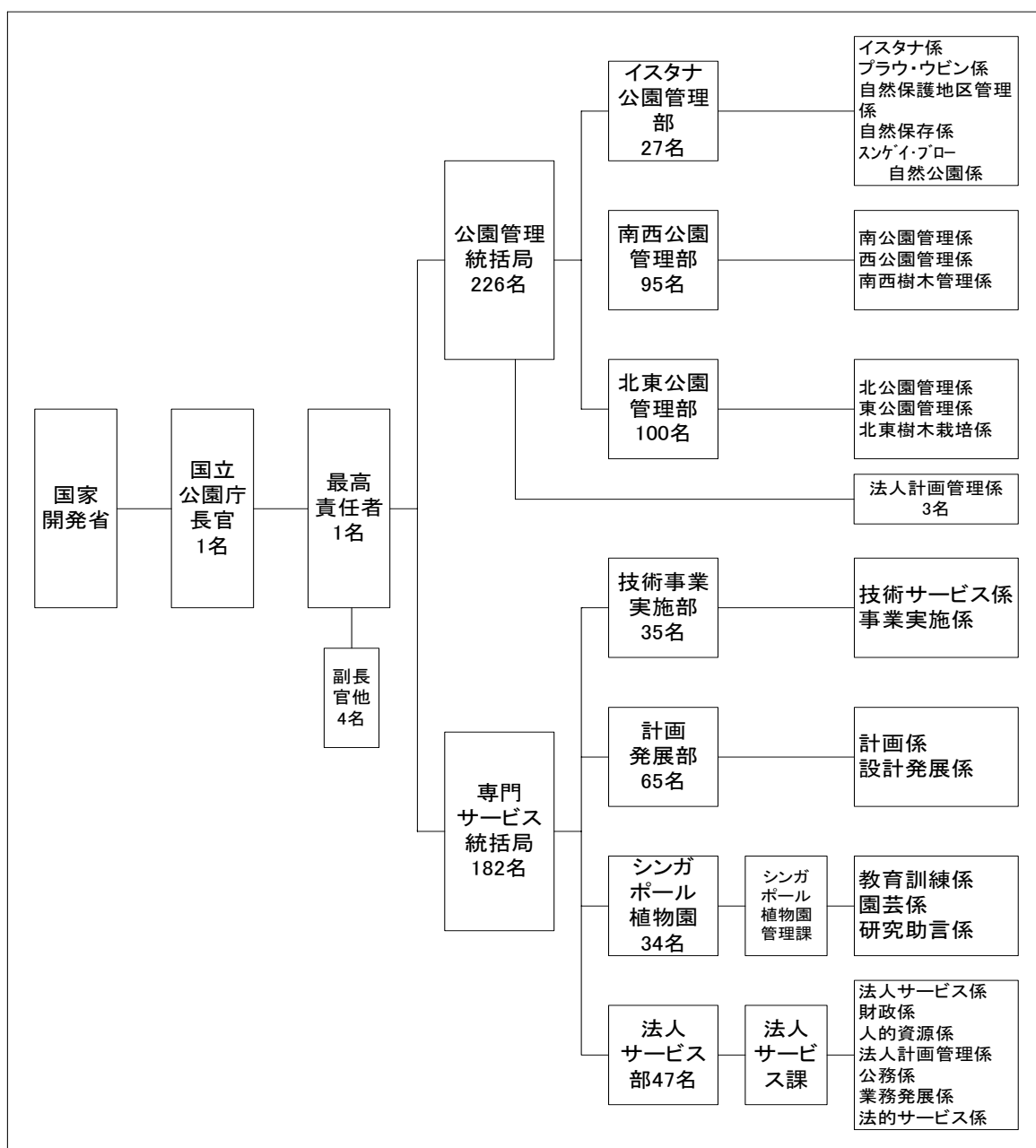
シンガポールの緑化政策は現在、国家開発省が担当しており、具体的な施策はその法定機関である国立公園庁（National Parks Board）が行っている。同庁のミッションは、シンガポールへの訪問客やシンガポール国民のために質の高い公園を提供し、ガーデンシティとしてのイメージを高めることにある（"We Make Singapore Our Garden"）。

国立公園庁の組織図及び人員配置はおよそ表4のとおりとなっている。すなわち、国立公園庁は長官を筆頭に、最高責任者（CEO）の下、公園管理統括局及び専門サービス統括局の2つの局がある。公園管理統括局は公園の一般的な管理、運営を担当し、専門サービス統括局は主に技術部門を所管している。

公園管理統括局には、イスタナ公園管理部、南西公園管理部、北東公園管理部の3つの部があり、それぞれの部は3～5の係で構成される。それに対して専門サービス統括局は、技術事業実施部、計画発展部、シンガポール植物園、法人サービスの4つの部を持ち、（後述の2部はそれぞれ1つの課を持っている）2～7つの係で構成される。

2001年4月1日現在の職員数は、長官1名、最高責任者他5名、公園管理統括局226名、専門サービス統括局182名の計414名となっており、本部事務所は現在、植物園内に設けられている。

表 4：組織図及び人員配置



(注1) 公園管理統括局 226 名の内訳は局長 1 名、各部、法人計画管理係の職員数の合計。専門サービス統括局 182 名の内訳は局長 1 名、各部の職員数の合計。職員数の合計は 414 名。

(注2) 「イスタナ」とはマレー語で王宮を意味する言葉であり、緑生い茂る敷地内には広々とした庭園がある。現在では大統領官邸として使用されている。「プラウ・ウビン」とはジョホール海峡に位置するシンガポールで 3 番目に大きな島。近年、ここを国民が広く自然に親しめる場所として開発の手から守ることとしている。「スンゲイ・ブロー」とはシンガポールの北部に位置する、マングローブが生い茂る自然公園。

## 第2節 予算

シンガポールの緑化政策に関する予算は、表5のとおりである。

このうち、例えば2001年度の支出割合は、人件費が最も多くて約39%を占め、続いて公園の維持、整備費が約35%、一般管理費が約15%、固定資産の原価償却費が約8%となっている。また、対前年比、国家予算に占める緑化政策に関する予算の割合をみると、年度毎に変動があるものの、概ね一定している。このことは、緑化政策は一時的なものでなく、継続的に実施しなければならないというシンガポール政府の考え方を明示している。

1997年以降、経常支出が継続して増加しているが、その理由は職員の増加だけでなく、職員1人当たりの給与費の増加であると考えられる。

表5：予算

単位：シンガポールドル  
(以下、S\$と表記)

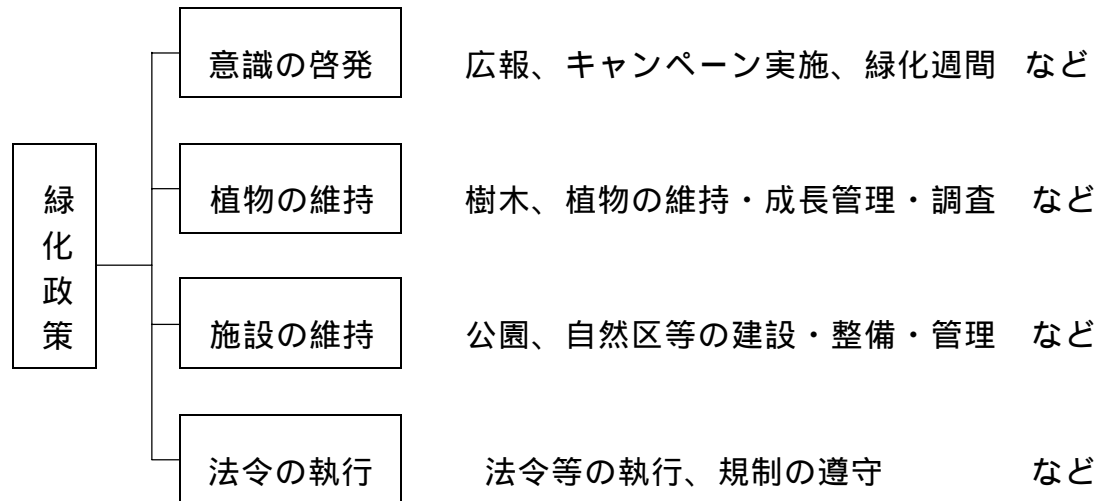
	予算（緑化政策）			前年比 (%)	予算（国全体）	緑化の 予算/ 国家予 算(%)
	経常支出	開発支出	合計			
1991	7,784,800	16,700,100	24,484,900		15,810,000,000	0.16
1992	8,301,420	17,781,900	26,083,320	106.2	14,210,000,000	0.18
1993	8,144,050	16,972,000	25,116,050	96.3	15,510,000,000	0.16
1994	7,044,740	18,552,100	25,596,840	101.9	16,750,000,000	0.15
1995	8,000,000	12,750,000	20,750,000	81.1	18,500,000,000	0.11
1996	7,500,000	10,052,000	17,552,000	84.6	18,880,000,000	0.09
1997	68,100,000	31,168,190	99,268,190	565.6	23,850,000,000	0.41
1998	68,300,000	32,000,000	100,300,000	101.0	27,200,000,000	0.37
1999	68,474,000	34,159,400	102,633,400	102.3	29,200,000,000	0.35
2000	75,835,800	34,690,500	110,526,300	107.7	28,990,000,000	0.38
2001	84,410,500	22,784,300	107,194,800	97.0	28,050,000,000	0.38

1996年7月1日、国家開発省内で、国立公園庁と公園・広場の造成、道路沿いの植樹等を所管する公園レクリエーション部が統合したため、1997年度から予算が大きく増加した。

### 第3節 業務内容

国立公園庁が行っている業務の体系は図1のとおりである。

図1 - 政策の体系



特に植樹等に関する維持管理等については様々なアイデアが取り入れられており、法による規制等についてもシンガポールならではの厳格な規制も盛り込まれていてたいへん注目に値するのではないかと思われる。

## 第4節 所管施設

国立公園庁はシンガポール植物園( Botanic Garden )の中に設置されており、次に掲げる国内の公園や植物園、自然保護区などを所管している。(表6参照)  
 なお、所管している公園の情報は、表7のとおりである。

「イースト・コースト・パーク」(表7の10番目)は、シンガポール島内の東海岸に沿って位置する広さ151ヘクタールの国内最大の公園であり、フィットネスやバーベキューピットなど、各種施設とともに、サイクリングやジョギングも楽しめるなど、非常に娯楽性の高い公園となっており、週末や休日には家族連れで楽しめるものとなっている。

「フォート・カニングパーク」(表7の12番目)は、シンガポールで最も歴史のある公園のひとつで、1819年にイギリス人スタンフォード・ラッフルズが住居と政府庁舎を建設した場所として広く知られている。英国の植民地時代や日本軍占領時に軍事目的で使用されていたこともあり、大砲や地下壕の跡が残されている。

表6 - 公園庁の所管施設

名 称 ・ 区 分	特 色
公 園・・・イースト・コースト・パーク、 フォート・カニング・パーク など 計 33	海辺のジョギングコース、バーベキューピット、犬の訓練エリアなど、地域の特色を活かした公園づくりを進展
植 物 園・・・ボタニックガーデン 計 1	1859年開園。60万種以上の標本があり、ランの多様性では世界トップクラス
自然(保護)区・・・ブキティマ自然区など 計 4	熱帯雨林の原生林。マングローブ林等 をできる限り自然の状態で保存
道路その他地域・・・街路樹、やし、低木 など	(本文第3章第1節参照)
パークコネクタネットワーク・・・ ジュロンパークコネクタなど 計 7	公園や自然保護区を緑の遊歩道等で結合(本文第4章第2節参照)

表7 - 国内公園一覧

	公園名	場所	規模	施設
1	アン・モ・キオ・タウン・ガーデンイースト (Ang Mo Kio Town Garden East)	Junction of Ang Mo Kio Ave 3 and 8, behind Ang Mo Kio MRT Station	5ha	子供遊戯施設、フィットネスコーナー、太極拳コーナー、足つぼマッサージなど
2	アン・モ・キオ・タウン・ガーデンウェスト (Ang Mo Kio Town Garden West)	Opposite Ang Mo Kio Town Library, along Ang Mo Kio Avenue 6	23ha	池、円形演劇場、フィットネスコーナー、売店、遊戯施設、足つぼマッサージなど
3	ベドック・タウンパーク (Bedok Town Park)	Bedok North Ave 3. Bounded by Bedok North Road, Bedok North Avenue 3 and the Pan Island Expressway.	14.6ha	サイクリング・ジョギングトラック、足つぼマッサージ用歩道、休憩所、フィットネスステーション、遊戯施設など
4	ベドック・リザーバーク (Bedok Reservoir Park)	Along Bedok Reservoir Road	41.7ha	フィットネスステーション、遊戯施設、ジョギングトラック、休憩場など
5	ビシャンパーク (Bishan Park)	Along Ang Mo Kio Ave 1	52ha	遊技場、フィットネス施設、休憩場、サイクリングトラック、足つぼマッサージ、菜園など
6	ブラス・バザーパーク (Bras Basah Park)	Bounded by Bras Basah Road, Queen's Street and Stamford Road	3.3ha	円形演劇場、遊技場、池、休憩場など
7	ブキット・バトック・ネイチャーパーク (Bukit Batok Nature Park)	Bukit Batok East Ave 2	36h	フィットネスステーション、休憩場、ジョギングトラック、池、見晴台、ネイチャートレイルなど
8	チャンギ・ビーチパーク (Changi Beach Park)	Along Nicoll Drive	52ha	遊技施設、バーベキューピット、キャンプエリアなど

9	クレメンティー・ウッズパーク ( Clementi Woods Park )	Clementi Road next to Kent Vale, along West Coast Road next to Ginza Plaza	12ha	円形演劇場、足つぼマッサージ歩道、フィットネス施設、遊戯施設、展望台、レストランなど
10	イースト・コースト・パーク ( East Coast Park )	Along East Coast Parkway	151ha	フィットネス施設、バーベキューピット ( 78 個 )、サイクリングトラック (12km)、ジョギングトラック ( 15km )、貸自転車、砂浜 ( 7.5km )、軽食売店、レストラン、ホーカ - センター、ウォータースポーツセンター、テニスコート、池、足つぼマッサージ歩道、キャンプ場など
11	エスプラネードパーク ( Esplanade Park )	Along Connaught Drive, opposite Padang and City Hall	2.4ha	-
12	フォート・カニング・パーク ( Fort Canning Park )	Cox Terrace adjacent to Registry of Marriages and Drama Centre.	19ha	多目的ホール、野外パフォーマンスエリア、レストランなど
13	イスタナパーク ( Istana Park )	Bounded by Orchard Road, Penang Road and Buyong Road	1.3ha	-
14	カラン・リバーサイドパーク ( Kallang Riverside Park )	Kallang Road Avenue 8 and 10	16ha	休憩施設など
15	ケントリッジパーク ( Kent Ridge Park )	Vigilante Drive off South Buona Vista Road. Access via Vigilante Drive, Science Park Drive and Pepys Road	47ha	フィットネスステーション、ネイチャートレイル、多目的コートなど



16	ラブラドルパーク (Labrador Park)	Along Labrador Villa Road off Pasir Panjang Road	16.8 ha	ビーチ、BBQピット、ジョギングトラック、休憩施設、ネイチャートレイル、サイクル歩道、子供遊戯場、フィットネスコーナーなど
17	ローワーセレターリザーバー (Lower Seletar Reservoir)	Bounded by Yishun Ave 1 and Lentor Avenue.	3 ha	ジョギングトラック
18	マリーナ・シティパーク (Marina City Park)	Marina South. Entrances at Marina Boulevard and Marina Park	30 ha	遊戯場、フィットネスコーナー、電話ボックスなど
19	マリーナ・プロムナードパーク (Marina Promenade Park)	Raffles Avenue	9 ha	遊歩道、休憩施設など
20	マウント・フィーバーパーク (Mount Faber Park)	Junction of Kampong Bahru Road and Telok Blangah Road	56 ha	休憩所、子供遊戯施設、見晴台、ケーブルカーステーション、カフェテリア、売店(軽食、お土産)など
21	パシール・リス・タウンパーク (Pasir Ris Town Park)	Pasir Ris Town	-	池、足つぼマッサージ歩道、売店、フィットネスステーション、子供遊戯場など
22	パールズ・ヒル・シティパーク (Pearl's Hill City Park)	Pearl's Hill Terrace	9 ha	休憩施設など
23	ポンゴルパーク (Punggol Park)	Junction of Hougang Avenue 8 and 10	16 ha	池、ジョギングトラック(1.3 km)、遊戯施設、フィットネスセンター、売店、休憩施設
24	センバワンパーク (Sembawang Park)	At the end of Sembawang	15 ha	バーベキューピット、子供遊戯場、足つぼマッサージ歩道、シャワー付きトイレなど
25	トヨ・パヨ・タウンパーク (Toa Payoh Town Park)	Junction of Jalan Toa Payoh and Toa Payoh Lor 6	4.8 ha	池、ジョギングトラックなど
26	テロック・ブラン	Telok Blangah	34 ha	駐車場、鳥のコーナー、休憩施

	ガ・ヒルパーク (Telok Blangah Hill Park)	Green off Henderson Road		設、ネイチャートレイル、フィットネスコーナー、足つぼマッサージ歩道、レストランなど
27	ワー・メモリアルパーク (War Memorial Park)	Bounded by Nicoll Drive, Stamford Road, Beach Road and Bras Basah Road	1.4 ha	-
28	ウェスト・コースト パーク (West Coast Park)	Parallel to West Coast Highway	50 ha	遊戯場、フィットネスコーナー、バーベキューピット、バードウォッチングなど
29	ウッドランド・タウン ガーデン (Woodlands Town Garden)	Woodlands Centre Road adjacent to Bukit Timah Expressway	11 ha	円形円劇場、遊戯場、池、休憩施設など
30	ユーション・パーク (Yishun Park)	Bounded by Yishun Ave 4, Yishun central, Yishun Ave 11 and Yishun Ring Road	17 ha	遊戯場、休憩施設、ジョギング & サイクリングトラック、チェ スボードコーナーなど

次章以下において、具体的な取組内容などについて紹介することとする。